

特 集

電子情報通信分野の歴史に残すべき技術 —産業界を中心として—

特集発行にあたって 前編集特別幹事 仙石正和

本学会誌で、技術の歴史について取り扱われる機会はそれほど多くはない。最近では、1995年11月号に「あの技術は今……—技術の変遷と21世紀への展望—」が特集として発行されている。それは、分野ごとの過去の技術開発を振り返り、その成功や失敗を分析し、更に21世紀への技術発展を展望しようというものであった。今回の特集は、4年を経過しているが、切り口を変えたものとなっている。我が国における企業や研究機関（大学を除く）において、電子情報通信技術の開発で、独創性や有効性で社会的に評価を受け、歴史に残すべき技術となっているものについて、まだデータ・資料（機器を含め）のあるうちに、また開発への情熱を燃やした人々が残っているうちに、できるだけ整理して頂くことを目的としている。歴史に残すべきものかどうかの選択はその企業や研究機関にお任せした。そのため、特に本学会が歴史に残すべき技術として判断したものではなく、その判断は、読者にお任せすることとした。今回は20の企業と研究機関に執筆をお願いし

たが、このほかに多くの歴史に残すべき技術が存在するであろう。それらの技術については、今後、本会「技術と歴史」研究会（篠田庄司委員長）において、継続的なフォローを頂くことになっている。

一般に、歴史を眺めるとき、過去のある瞬間を再構築するというよりも、今日の関心、今日の問題に照らし合わせてその瞬間を理解しようとするであろう。すなわち、多くの人々が過去の出来事を求めるのは、それらの出来事を読むため、新しく解釈するため、そして今日の関心事に照らし合わせて見つめ直すためであって、過去を単純に再構築することや、昔のままを正確に理解するためだけではない。

今回の特集は、データ・資料の意味合いが強いが、歴史に対する上記の期待に少しでもおこたえていければ望外の喜びである。

快く御執筆をお引き受け頂いた、企業・研究機関の著者の方々、編集長辻井重男先生、及び、本特集の提案、編集について全面的に御協力頂いた、本会「技術と歴史」研究会委員長篠田庄司先生、同幹事鈴木寿先生に厚く御礼申し上げる。また、本特集の企画・編集に御尽力頂いた編集委員の皆様にも心から感謝申し上げる次第である。

特集編集チーム	仙石 正和	鈴木 寿	石浦菜岐佐	安藤 彰男	柏木 雅英
島村 徹也	田中 利幸	新田 徹	宮崎 敏明	宮永 喜一	村澤 健吾
森松 映史	山田 功				